第28号
2017/09

PVかながわ ニュースレター

Report

長年連れ添った太陽光パネルの行く末！ ～新築ZEH住宅のPV移設顛末記～

年間の一次エネルギー収支ゼロを目指した高気密高断熱ZEH（エネルギーゼロハウス）を新築することになった。ZEHの補助金申請では、認定の省エネ機器購入が要件となり、ほとんどの電化製品は移設できない。照明、浴槽、洗面台等、使用可能な思い出のある物を捨て、ZEHにする必要があるのか、これで大変悩みました。現行パネル(下表参照)も移設したかったが、新設の太陽光システムが必須で、移設するスペースがない。群馬県の親戚から予算があえばと話があったので検討してみたが、保証期間内の京セラの見積は、取外・取付と架台で40万＋搬送費10万＋雑費等で60万円前後で保証期間は半分しかない。連系について現地の業者、東電に確認すると、名義変更が認められれば可能だが実績はないとのことで、結局、新品の方がいいとなった。物置の屋根へ10枚と考えてみたが、建物名義は息子へ変更しており、連系の名義変更可否が不透明。設置業者に引き取りを依頼すると撤去代、廃棄処分代で20万円、2セットで40万円という。

PV-Netに相談したところ、1か月後に欲しい人が見つかったと連絡あった。オフグリッドで利用するようで、取り外し、運送費は先方持ちということで落着し、解体までには間に合った。本部事務局の方々には大変お世話になりありがとうございました。

～所感～

1. ZEHの省エネ推進は理解するが、利用可能機器を使い続けられないのはどうか？
2. PVには、車のような中古市場がないため値が付かず、無償か個人売りしかない。
3. 売電単価は設置年により違い、名義変更など管理が必要だが、残余期間継承手続ついて、設置業者も東電も理解不足。
4. ライフコストとして、廃棄費用も知っておくべき。パネルは取り付けも外すにも廃棄するにも相当な費用が掛かる。（原発廃棄時の高額な処分費に驚くと同じ。）

将来、移設費用を十分回収できるような中古パネル市場が形成され、長年連れ添ったパネルも、うまく活用して欲しいと思う。　（須藤 記）

A	シャープ	設置月日	2001.12	パネル枚数	24枚	太陽電池容量	3.0Kw
B	京セラ	設置月日	2011.11	パネル枚数	20枚	太陽電池容量	3.8Kw

世話人から

連絡事項

1）神奈川地域交流会代表

2017年8月より地域代表が**横谷公雄**氏から**田辺啓平**氏へ交代となりました。今後ともよろしくお願いします

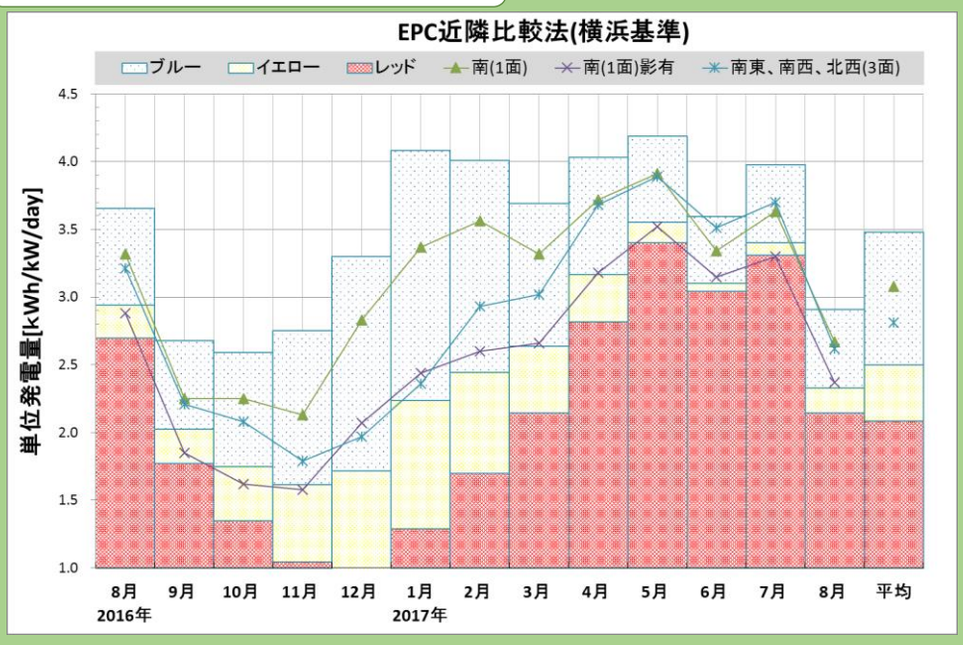
2）今後の予定

2017年10月7日（土）
「大野台おひさまフェスタ」
会場：大野台こどもセンター
時間：13;30～15:00

2017年10月15日（日）
ワークショップ第22回
「出前発電所をつくろう！」
会場：「ノクティ2」(溝の口駅)
時間：13:00～16:00

2017年10月29日（日）
「あつぎ環境フェア」
会場：厚木中央公園
時間：10:00～15:00

今月の単位発電量！



横浜の日照時間は平年に比べ42%減と夏らしくない天気が続きました。気象庁によると8月は「太平洋高気圧は、日本の南海上で平年に比べて西への張り出しが強く、上旬から中旬にかけてオホーツク海高気圧が出現したため、北・東日本太平洋側では北東からの冷たく湿った空気が入りやすかった。北・東・西日本では大気の状態が不安定となる時期があり、各地で大雨となった。日照時間は北・東日本で少なく、特に太平洋側はかなり少なく、東京では8月の最少の値を更新。一方で沖縄・奄美ではかなり多く、西表島（沖縄県）では8月の最多の値を更新した。西日本では平年並だった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドになる場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。